

≫ 去年度に収蔵された貴重な資料を一挙公開

新収蔵品展

開催のお知らせ

令和7年度
収蔵資料

沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）では、5月12日（火）から「新収蔵品展 令和7年度収蔵資料」を開催します。

本展では、令和7年度に寄贈・収蔵・購入・移管・修理された資料を広く公開し、当館の調査活動と資料保存の成果を通して地域の価値や魅力への理解を深めていただくことを目指します。

昨年度も、多数の貴重な資料が寄贈され、収集・購入分が新たに収蔵されました。

展示には、江戸立ちの足跡を物語る新発見資料、尚寛筆の「瑞気」や沖縄独自の洗骨の風習を今に伝える「マンガン掛け焼き締め庇付き厨子」など、沖縄の歴史を彩る貴重な至宝が一堂に会します。

なお、展覧会の開催にあたり、5月12日（金）10時より開会式を実施いたします。ぜひ開幕取材にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

【開会式概要】

日時：令和8年5月12日（火） 10：00～10：30 （9：30受付）

場所：沖縄県立博物館・美術館 3階（企画展示室前）

スケジュール：1.寄贈者への感謝状贈呈式および主催者挨拶

園原 謙（沖縄県立博物館・美術館 館長）

2.テープカット

3.展示解説会（各分野担当学芸員）

10：30～11：30



尚寛筆「瑞気」

1832年に江戸立ちの正使を務めた尚寛の書に関する貴重な資料が確認されました。これまで現存が確認されていたのは、六孫王神社の扁額および沖縄美ら島財団所蔵の原本のみでしたが、それに続く新たな資料となります。江戸立ちに関連する扁額や書はこれまで愛媛県および宇和島市では確認されておらず、四国地方における初の重要資料となる可能性があり、琉球と四国の交流史を解明するうえで、新たな研究の展開を促す貴重な手掛かりといえます。



黒漆螺鈿三線

漆黒の棹に、伝統工芸の「螺鈿」の装飾が鮮やかに映える三線です。現代の普及型の三線をベースに、螺鈿細工が施された比較的新しい資料です。



ヒレジャコ貝殻標本

沖縄県・慶良間諸島の渡嘉敷島（とかしきじま）で採集された、圧倒的な存在感を放つヒレジャコの貝殻標本です。本個体は殻長（最大長）が約40cmに達しており、ヒレジャコとしては国内でも最大級のサイズを誇ります。



マンガン掛け焼き締め底付き厨子

琉球の葬送文化において、洗骨後の遺骨を納める器として独特の発展を遂げた陶製の蔵骨器（厨子甕・ジーンガミー）です。当時の製作技術の高さや家系の繋がりを今に伝える貴重な逸品です。

※ 広報用画像をご希望の方は h-higa@okicul-pr.jp（比嘉）へご連絡下さい。

【展覧会概要】

展覧会名：「新収蔵品展 令和7年度収蔵資料」

会期：2026年5月12日〔火〕～6月21日〔日〕

主催：沖縄県立博物館・美術館

場所：沖縄県立博物館・美術館 3階 博物館企画展示室

開館時間：9:00～18:00（金・土は20:00まで）※最終入場は閉館の30分前まで

休館日：毎週月曜日 ※6月23日（月）は開館し、翌平日が休館。

【お問合せ先】

沖縄県立博物館・美術館 指定管理者（公財）沖縄県文化芸術振興会

広報営業担当（石田・比嘉）【TEL】098-941-8200/【FAX】098-941-2392